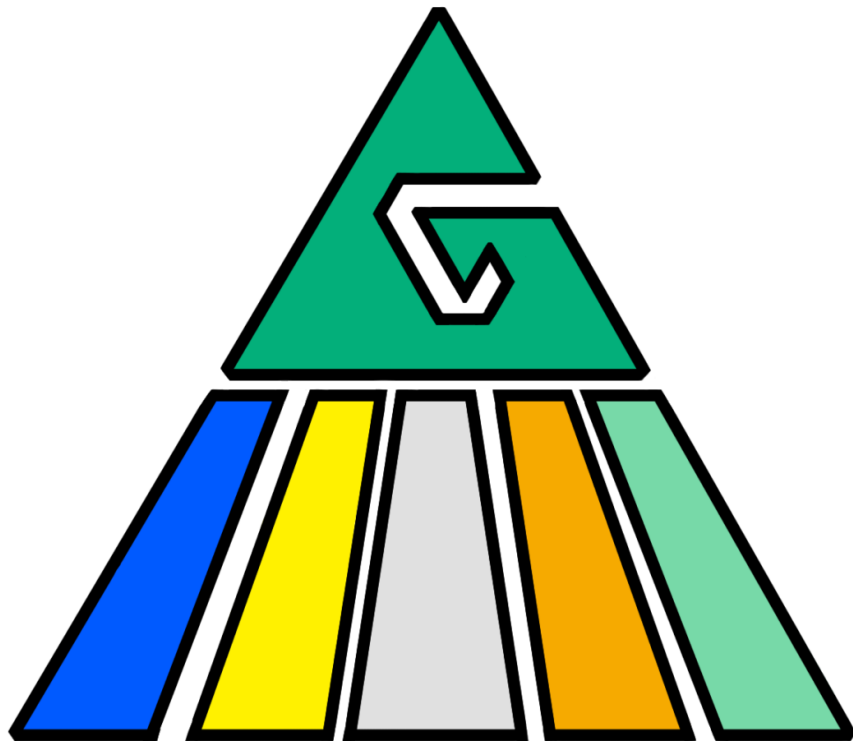


# ロゴマーク応募作品一覧



【あ】



【作品解説】

学生を表す5色の直線が山の頂点に向かっており、あらゆる学生の成長と、頂点で活躍していく姿をイメージしました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【い】



【作品解説】

群馬大学の頭文字であるgで150の"5"を表現しました。150の周りには赤城、榛名、妙義の三山に囲まれている様子を表しており、また、群馬大学のロゴをオマージュした原点（過去：青）から150周年を通過して更に未来へと進んでいく様子を矢印（緑）で表現しております。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【う】



【作品解説】

本案は「150」と“Gunma University”の「G」と「U」を融合させて形象化しています。そしてまた、5の一部を将来に向け上昇する矢印にし、周年事業が今後の大学のさらなる発展へと向かう起点になることを祈念しています。色は大学ロゴマークとの差を設けつつ、記念事業にふさわしいよう、「150」は白地において金色に見える色を、矢印は健康や若々しさ、自然を感じさせる浅葱色を使用しました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【え】



【作品解説】

群馬大学の頭文字のGを中心に、赤、青、黄、緑の円でまとめました。Gの文字は、豊かな緑を象徴し、植物の蔓を表現しました。そして、創基150周年記念のロゴマークであるため、金色を使用し、華やかさを演出しました。周りにある四つの円は、群馬大学が一丸となるという意味を込め、円にしました。それらの配色は、光の三原色と、色の三原色で配色しました。

光の三原色である、赤、青、緑は全て混ぜれば白になり、色の三原色である、赤、青、黄は全て混ぜれば黒になります。どんな色にもなれる可能性を秘めている、ということと掛け合わせ、何にでもなれるという意味を込めて、赤、青、黄、緑の配色にしました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【お】

GUM

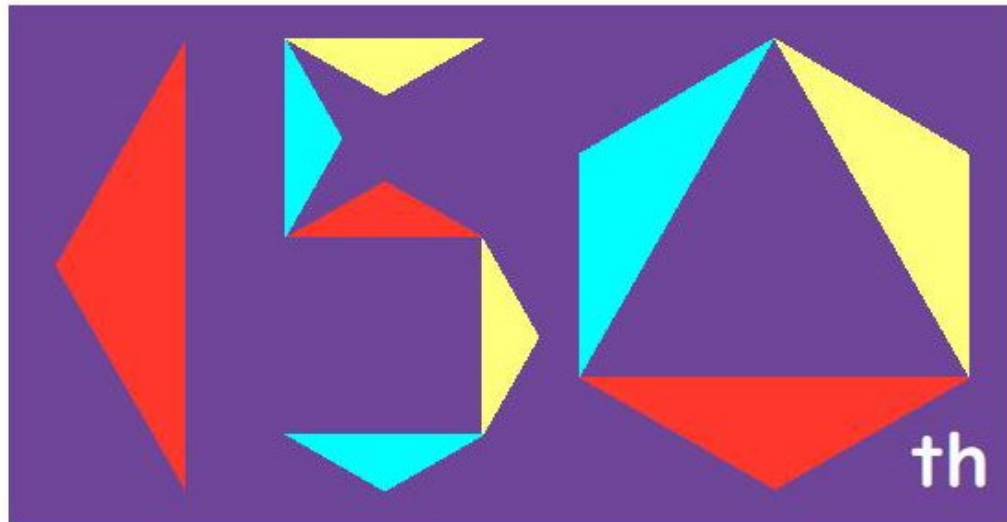
【作品解説】

馬に人が乗っている様子です。3D表示にすると走っているように見えます。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。



# 【か】



ANNIVERSARY  
GUNMA UNIVERSITY

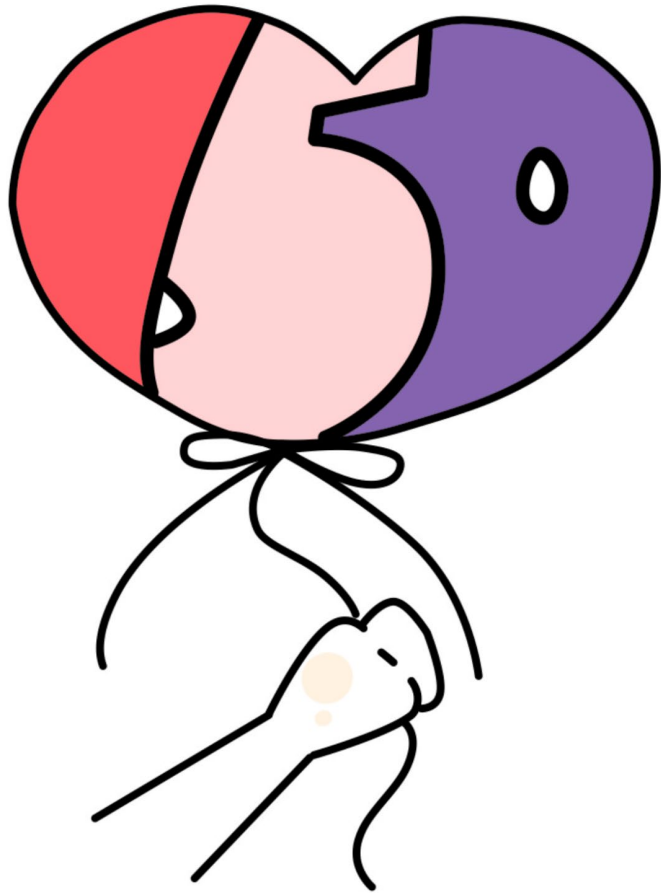
## 【作品解説】

群馬大学の徽章をモチーフとし、赤城・榛名・妙義の上毛三山で150周年の文字をデザインしました。

また、背景の紫は群馬大学創基150年の伝統を表し、上毛三山の色はその中で育まれてきた群馬大学の理念・目標でもある情熱（赤）・英知（黄色）・自由（青）を表しています。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【#0】



【作品解説】

風船をモチーフにすることで、遠く  
の場所とのつながり。ハートにす  
ることで、人との心のつながりを表  
しました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載  
せています。



【<】



【作品解説】

シンプルに150周年を伝えるロゴ。  
背景は群馬県の形。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【け】



### 【作品解説】

群馬大学らしいデザインにするために、群馬県のトレードマークである、鶴をあしらった150のデザインにしました。群馬大学の150年という歴史を全面的にアピールできるように、大きく150を配置しました。羽根ペンは群馬大学が紡いできた歴史や学問をイメージしています。日本に羽根ペンが輸入されたのも約150年前になります。ペンがgunnauniversityの文字と鶴を描いて、鶴（学生）が学ぶことによって羽ばたいて行くことを表し、ペンは途切れずこれからも描き続けていく（群馬大学が発展していく）という願いもこめられています。

5と0にあしらわれた鶴は、群馬大学で大きく羽を広げるように学ぶ姿や、社会に羽ばたき活躍する姿を表しています。白黒プリントでも、カラープリントでもデザインがわかりやすいデザインにしました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【こ】



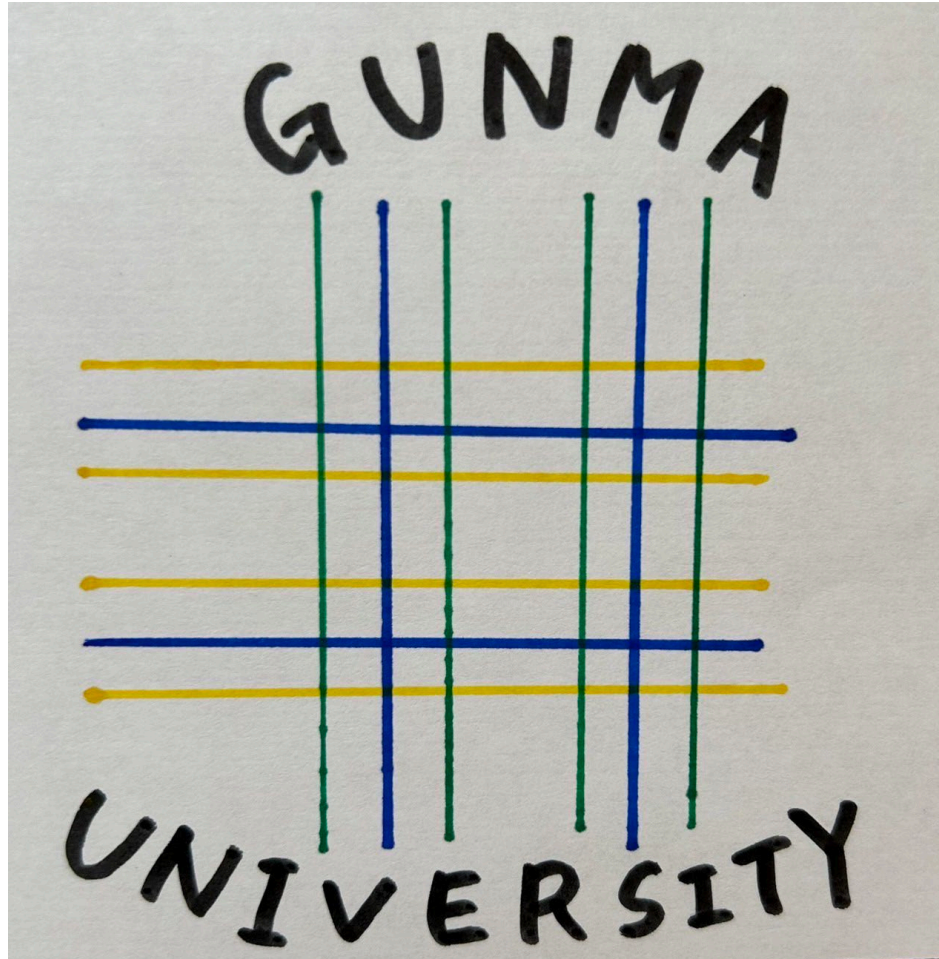
### 【作品解説】

群馬大学のホームページに多く使われている、緑色を使用しました。群馬大学の許可が頂ければ、鶴の頭の部分を、群馬大学のロゴに使われている青に置き換えることで、より、大学に関連あるロゴになると思われます。1点目の付け足しなので、0の部分は群馬大学のGになっています 以下1点目同様の説明になります。

群馬大学らしいデザインにするために、群馬県のトレードマークである、鶴をあしらった150のデザインにしました。群馬大学の150年という歴史を全面的にアピールできるように、大きく150を配置しました。羽根ペンは群馬大学が紡いできた歴史や学問をイメージしています。日本に羽根ペンが輸入されたのも約150年前になります。ペンが gunnauniversityの文字と鶴を描いて、鶴（学生）が学ぶことによって羽ばたいて行くことを表し、ペンは途切れずこれからも描き続けていく（群馬大学が発展していく）という願いもこめられています。5と0にあしらわれた鶴は、群馬大学で大きく羽を広げるように学ぶ姿や、社会に羽ばたき活躍する姿を表しています。白黒プリントでも、カラープリントでもデザインがわかりやすいデザインにしました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【あ】



【作品解説】

上毛かるたでは、荒牧・昭和キャンパスがある前橋市は「県都前橋生糸の市」、桐生キャンパスがある桐生市は「桐生は日本のはたどころ」と表現されています。そこから、糸ではたを織ることをイメージし、このロゴを作りました。太田キャンパスがある太田市を含め、3都市を3つの色で表現しました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【し】



【作品解説】

上と下のデザインが合わさることで、GUを表している。上のデザインは馬の蹄鉄をイメージした。色は自然を意識し、茶色、黄緑色の二色にした。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。



【す】



【作品解説】

群馬大学が150周年を迎えるにあたり、その未来が明るいものであるよう光沢のあるデザインに統一しました。また、左の歯車は大学にある学部をイメージしたカラーを採用しており、それぞれの歯車がかかることなくうまく組み合わせることで、様々な分野が互いに支えあって活躍している様子を表現しました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【せ】



【作品解説】

「150」をデザインし、「1」と「5」で人を、「0」を未来として図案化しました。過去の歴史を経て、本周年事業を起点として発展していく未来へと進む大学の姿を表現しています。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。



【そ】



### 【作品解説】

【モチーフについて】 万年筆の筆先を「教育・学問」、筆先から繋がっている線と山（上毛三山のイメージ）を「地域との繋がり」として、小学校教員伝習所から始まり、現在も地域に根差している大学であることを示しています。また、山から伸びている大きな双葉は、群馬大学で学び、地域、そして世界へと踏み出していく学生たちのしなやかな思考と向上心を表現しています。【書体について】 150年という歴史の長さ、そして長年地域と連携してきた「信頼感・安定感」を、太めのゴシック体で表現しています。また、視認性の高さからもこの書体を選定しました。【色について】 色は、群馬大学のロゴマークで馴染みがあり、緑豊かなキャンパスを想起させる緑を基調としています。今回は周年事業ということ踏まえ、落ち着きのあたるトーンの緑を選定しました。また、双葉の色は「4つの学部」と「学部・国籍の垣根を超えた多様性」を表現するため、4色のグラデーションを組み合わせています。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

# 【た】



## 【作品解説】

「From G To U」 「群馬大学・群馬県」から、「世界へ・あなたへ」発信していきたいという意味が込められている。デザイン上部は上毛三山、下部は温泉をイメージしている。自然豊かな群馬県で過ごしたことを誇りに思えるようなロゴにしたかった。今後の発展も込めて、群馬県を代表するような、象徴するようなロゴになるといい。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【ち】

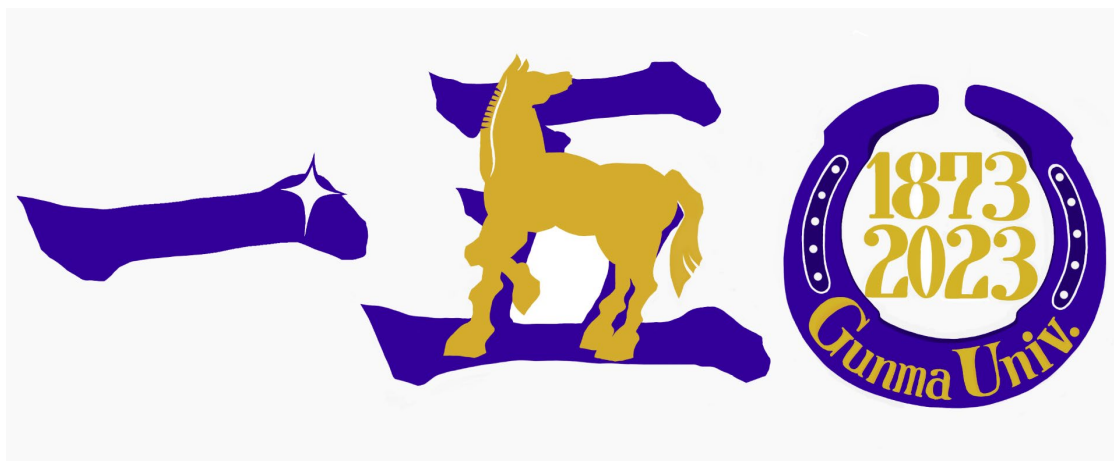


【作品解説】

すでに広く認知されている現在のロゴの印象を残しながら、大学の発展をイメージしました。小学校教員伝習所から始まり、今も教育学部を擁する群馬大学のイメージにふさわしく角の取れた柔らかな印象の文字で150周年をアピールしました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【つ】



### 【作品解説】

イメージカラーの紫色を基調とし、お祝いと輝きの意味を込めた黄金色を使用しました。力強い習字体で、一は構成員一人ひとりが輝きを持っていること、群馬大学をイメージしやすい駆ける馬で五を模し、〇は幸せの象徴である馬の蹄鉄により、大学としての幸福を溜め込んでいく様子を表現しました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【て】



【作品解説】

群馬大学を支えている4つの学部を加え、150周年を迎えるのにふさわしい力強いロゴにしました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【と】



【作品解説】

上毛かるたの「鶴舞う形の群馬県」をモチーフに、群馬の「G」を形取りました。全体は、群馬大学の各キャンパスを取り囲む、生き生きとした木々や青空をイメージした配色となっており、4つの丸は、群馬の未来を太陽のように明るく照らす各学部を表現しています。右上には、150周年を象徴する数字を入れました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

# 【な】



## 【作品解説】

馬と大学をモチーフに制作しました。また、春夏秋冬を繰り返し150周年に至ったことから、花や葉、紅葉や雪を配置しています。大学の成長を願い、それらが群馬のからっ風に吹かれ、舞い上がっていく様子を表現しました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。



【こ】



### 【作品解説】

群大の全学部、全キャンパスの人が繋がり合い、全員で150周年という喜びを共有したいという願いを込めました。また、全学部が連携し、これからも地域に根ざした教育を続けていけたら良いなという思いもあります。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【ぬ】

The logo features a stylized mountain range in shades of grey and white. A yellow circle is positioned above the '150' part of the text. The text 'Gunma university' is in a dark grey serif font, and '150th' is in a larger, bold, dark green serif font.

Gunma university

150<sup>th</sup>

### 【作品解説】

群馬県は上毛三山（赤城、榛名、妙義）に代表されるように、美しい山々がたくさんあります。ロゴでは、そんな山々に囲まれた群馬大学を知の山峰としてイメージしました。群馬大学で育まれた知がやがて世界へと羽ばたいてほしいという思いを込めて、黄色の図形は山稜からの日の出を表しています。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【ね】



【作品解説】

群馬県は上毛三山（赤城、榛名、妙義）に代表されるように、美しい山々がたくさんあります。ロゴでは、そんな山々に囲まれた群馬大学を知の山峰としてイメージしました。群馬大学で育まれた知が、世界へ、そして未来へと羽ばたいてほしいという思いを込めて、黄色の図形は山稜からの日の出を表しています。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【の】



### 【作品解説】

新たなページをめくるように今まで紡いだものをこれからも紡いでいくイメージ。校章のイメージに寄せて学校らしさをアピールするとともに、小学校伝習所のロゴもモチーフとして扱った。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【は】



【作品解説】

群馬大学の頭文字であるGと150周年の文字を組み合わせ、群馬大学のロゴと合うように自然を表す青と緑で表現しました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【ひ】



【作品解説】

群馬大学のロゴの緑をメインカラーとして使用しました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【絆】



【作品解説】

150年をみんなで築きあげた絆を表しています。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。



【へ】

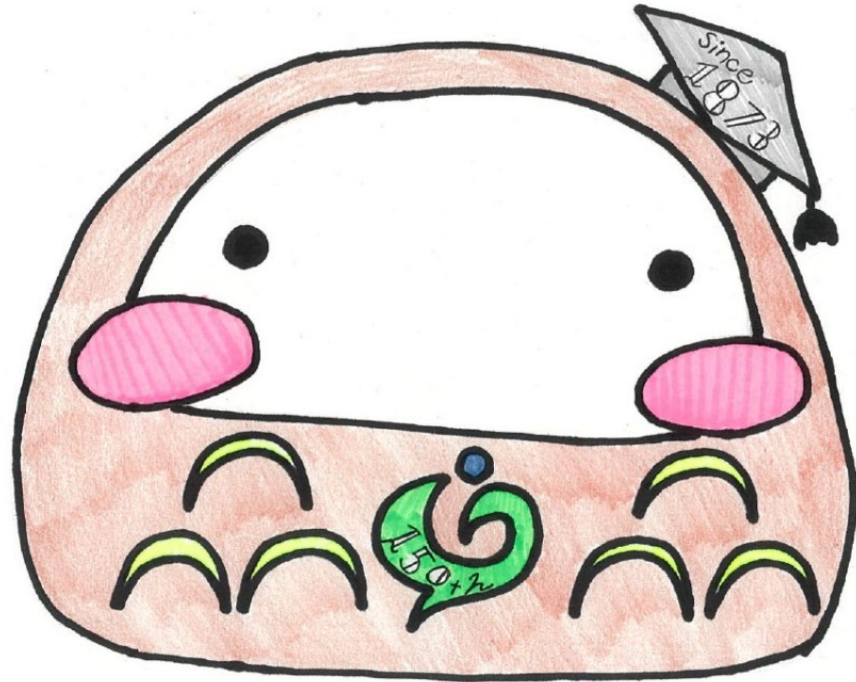


## 【作品解説】

「だるまんじゅう教授」群馬県観光地、温泉でよく目にする「温泉まんじゅう」の形に群馬県の伝統工芸品である、だるま絵柄をつけました。群馬大学のロゴマークということで群馬大学のマークと教授帽を取り入れました。大学マークの横には、群馬県の自然の象徴である、上毛三山をイメージした柄をつけました。だるまは、縁起物として広く親しまれていることに加え、諸説あるがだるまの源流としてある、倒そうとしても起き上がる人形「不倒翁」から、群馬大学の基本理念に出てくる、自主性や自律性にもあてはまると感じました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【ほ】



【作品解説】

「へ」の「だるまんじゅう教授」の簡易版です。解説も「へ」と同様となります。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

# 【ま】

## 【作品解説】

自然をイメージさせられるロゴにしました。群馬大学の教育目標に、自然との共生という言葉があります。自然に囲まれた、勉強しやすい環境であるというのを緑や茶色を使って表現しました。また、緑や茶色の中に黄色を加えることによって、輝きを表現し、落ち着きすぎないバランスの良い色合いにしました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。



【み】



群馬大学  
GUNMA UNIVERSITY

【作品解説】

“鶴舞う形の群馬県”という言葉にちなんで、たとえ世の中がどうなろうと鶴のようにたくましく優美に世界へ羽ばたいていけるようにという願いが込められています。鶴は群馬大学の英語の頭文字「G」の形で羽ばたいています。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【む】



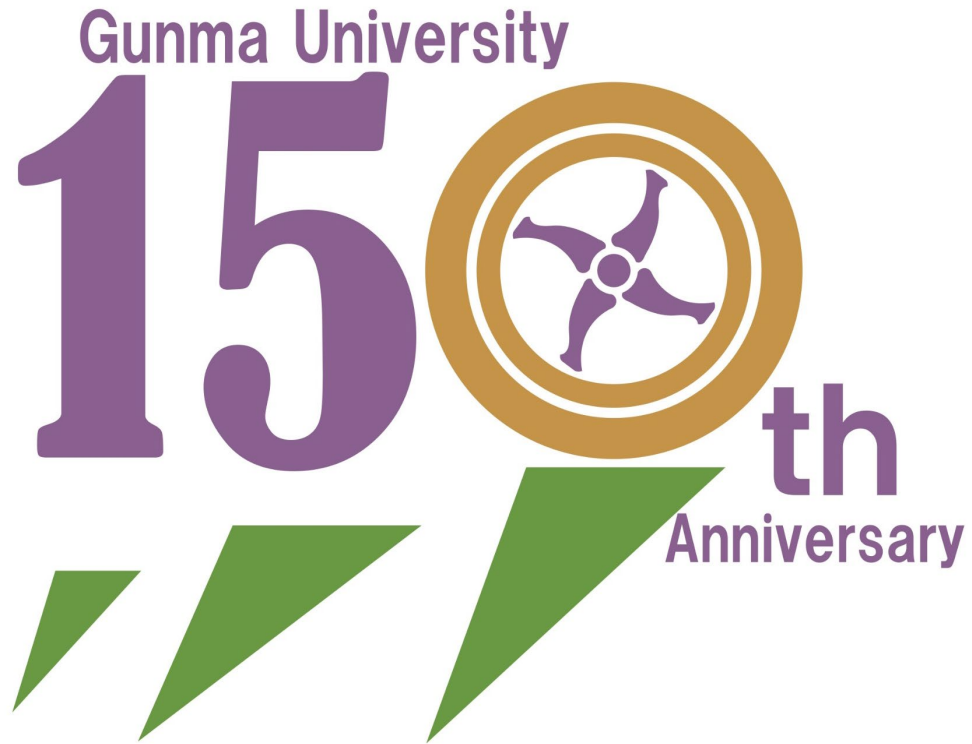
【作品解説】

「ぐんま」の頭文字GNMより、G > Green（緑が多く自然豊か）、N > No-Sea（海は無くても流域日本一の利根川がある）、M > Mountain（山に囲まれている）と、群馬を象徴する地理を表現しました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。



【め】



#### 【作品解説】

本作品は「150周年」、「車輪」、「上毛三山」の三つから構成しております。

まず、下部の緑色のモチーフが上毛三山を表し、左から順に妙義山、榛名山、赤城山となっています。地図上でも西からこの順に並んでおり、標高の順も右上がりに上がっていく、縁起のいい並びになっております。群馬大学の更なる発展を祈って、右上がりの上毛三山をイメージしました。

次に、150周年の「0」は群馬大の四つのキャンパスをスポークに見立てた車輪として表現しております。群馬大学が所在する群馬県は、「車」と縁の深い県です。群馬の県名は、現在の群馬県のなかにあった「車（くるま）評」が、「群馬（くるま）評」に変更されたことに由来すると言われております。工業分野でも、群馬で盛んであった養蚕業で使う機械には車輪が用いられ、世界的な車メーカーSUBARUの拠点があります。

また、車輪は人類の歴史にとって大きな役割を果たした発明の一つでもあります。車輪は前進を想起させ、車輪の“ハブ”は“中心”といった意味合いでも用いられることから、車輪のイメージは知の集積拠点を掲げる群馬大学にとってふさわしい象徴と言えるのではないのでしょうか。

最後に、カラーリングは群馬県の県旗から紫、群馬大学のロゴから緑を取り、車輪を黄土色にすることで、上毛の豊かな大地をイメージしてまとめました。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。

【も】



GUNMA UNIVERSITY

【作品解説】

「150TH」の文字で3つの山を表現しました。

山は群馬のシンボルとしてだけでなく、地続きであることから大学や地域間の連携、さらに大学の歴史や学生の学びの蓄積を感じさせるものとしてモチーフに選びました。

カラーは大学ロゴにも使われており豊かな自然を感じさせるグリーンから、未来を感じさせるイエローにかけてのグラデーションで設定しています。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。



【や】

150年群

GUNMA UNIVERSITY

### 【作品解説】

「一五〇年」と大学名頭文字の「群」を一つの文字としてマーク化しました。大学間や地域間のつながりを重視する事業の目的に沿い、仲間と築き上げてきた150年と、これからも共に進んでいく未来の意味を「群」という文字にこめています。カラーは先進性を感じさせるブルー寄りのグリーンで設定しています。

※作品解説には、応募者による説明文章をそのまま載せています。